

大串ひろやす通信

発行責任者 千代田区議会公明党議員団 大串ひろやす 〒102-0083 千代田区麹町2丁目14-305 Tel/Fax 03-3221-1554 <http://www.h-ogushi.com/>

夏の通信では

「調査なくして発言なし」とは公明党の伝統です！会派の調査研究の成果を定例会ごと通信として発行しています。ご意見、ご感想をお待ちしています！



ページ	コーナー	内 容
1	トップページ	快適な孤独生活が蔓延してしまう！
2-3	本会議質問	都市の拡大と機能性優先から人の幸せと尊厳を優先とする都市政策へ！
4	ちょっと教えて	中間支援組織について教えて！
4	朗 報	参画と協働の指針が策定されました！
-	コラム	平成26年度の各白書から バランスを欠いた機能主義 住まいと住まい方

孤独な快適生活が蔓延する



首都大学東京教授の宮台真司氏は、まちづくりにおいて、利便性、快適性も必要だが、それだけで終わってしまってはならないと述べる。

「便利や快適もいいが、それだけではどこにでもあるまちと同じになって、孤独な快適生活が蔓延するだけだ」「どんなに便利で快適でも幸せでなければ話にならないわけです。幸せに加えて、尊厳を意識するはずです。例えばアングロサクソン社会のイギリス

なら、ハピネスとウェル・ビーイングが意識される。(中略)でも、我々の思考は、ハピネス以前のアメニティーとコンビニエンス(便利さ)の段階でとまっています。それが幸せに貢献するのか、そして尊厳に貢献するのか、ということをほとんど考えてこなかった。今回の震災は、我々日本人がウェル・ビーイングについて考える初めてのチャンスかもしれません」(2011.5.26 宮台氏、津田氏、五十嵐氏の鼎談より)と。日本ほど、快適かつ便利で治安のよい国はない。しかし、国民は幸せでなく孤独であるという。(コラム1)宮台氏の意見は重要な指摘で私も賛成だ。快適、便利偏重だとまちの個性は失われ人の尊厳は脅かされるという。

都市政策の大きな転換を！



1. 都市政策についての基本的な考え方は

問 高度経済成長という目標の達成に、都市政策はその中心的な役割を果たしてきた。その基本的な考え方は二点である。一つは「膨張する都市」という考え方だ。これは、高度経済成長を可能にする前提となるものが都市への人口集中であったことによる。もう一つが「都市の機能性」を優先とする考え方だ。都市の機能は、住居、労働、余暇、交通にあり、都市は「太陽・緑・空間」を持つべきであるとするものだ。(コラム2)大震災を機に、これらの基本的な考え方も変わらねばならない。それは、「都市の拡大」と「都市の機能」を優先とする政策から、住民の幸せと尊厳を優先とする都市政策への転換だ。そこで、区長に、都市政策のあり方について基本的な考え方を問う。

答 区長答弁 (要旨)
都市政策を進める上で、従来の考え方に加えて超高齢化社会ということ鑑みると地域福祉をまちづくりの中にどういうふうに組み込んでいくかというのは、私は、重要な課題だと認識している。必ずやそういう思いでこれからも千代田区のまちづくりというのを進めていきたい。まちづくりを通じて豊かな地域社会の構築につなげていきたい。

コラム1

平成26年度版白書より

平 成26年度版の各白書が公表された。子ども・若者白書では、先進7カ国の子どもと若者を対象にした意識調査の結果が掲載された。「あなたは自分の将来について明るい希望を持っていますか」との問いに、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と答えた日本の若者の割合は、61.6%で、7カ国中最下位。また、幸せを問う質問では「あなたは40歳になったとき、どのようになっていますか」との問いに、「幸せになっている」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合も、66.2%で最下位だった。ちなみに、他の国の若者は、それぞれ80%以上だ。自殺対策白書は、自殺者の数は、2年連続で3万人を下回ったことはよしとしながらも、若い世代の自殺が深刻な状況にあると報告する。15歳から39歳までの各年代で、死因の第1位が全て自殺となっており、このことは、先進国では日本のみであると。高齢社会白書でも、孤立死が多発している状況、そして高齢者の単身者世帯のなんと4割の方が、孤立死を身近な問題と感じていると現状を報告する。

各 白書が今の日本の現状に警鐘を鳴らす。経済的に豊かで治安も良く利便性・快適性も良い日本でなぜなのか。国民に広くこの問題を問い、国民の英知を今こそ結集し解決していかねばならない。

都市の拡大と機能性優先から 人の幸せと尊厳優先の政策へ

2. 千代田区の都市としての現況と課題は

3. 都市政策と福祉の 住宅政策は連携を！

問 都市計画マスタープランが策定されてより16年が経過した。策定時と今を比較し、都市の現況と課題はどうか変化したのか、または変わらないのものは何か（策定当時は、バランスを欠いた都市の機能性は地域社会の崩壊をまねき区民人口の減少につながるとの危機感を持っていた。（コラム2））現段階における千代田区の都市としての現況と課題についてどう認識しているのか。

答 まちづくり推進部長答弁
策定から今日までの間に、東日本大震災を経験し、建物の耐震性の向上やエネルギー供給の多様化など、災害に対する都市の備えや、老朽化する都市インフラの保全改修に対する対応、そして、今後の人口増加と多様な価値観を有する人たちに対応した住居や住環境の整備、高齢化の進展による福祉のさらなる充実や公共施設のバリアフリー化などの必要性が高まっていると認識している。

問 地域包括ケアシステムには高齢者の住まいと住まい方が重要だ。まちづくり推進部は福祉部と連携を図りながら、民間の力を適切に誘導し住宅の整備を進める必要があるかどうか。

答 まちづくり推進部長答弁
地域包括ケアシステムの実現を後押しする住まい・住環境づくりのあり方を模索し、具体的に取り組んでいく。

コラム2

バランスを欠いた機能主義には注意が必要！

都 市政策の基本理念に「機能する都市」がある。これは1933年、第4回近代建築国際会議で採択されたアテネ憲章、都市計画及び建築に関する理念である。スイスの建築家、コルビュジェが提唱した。「都市の機能は、住居、労働、余暇、交通にあり、都市は『太陽・緑・空間』を持つべきである」とする。高いビルの周りに公園を配置し、周辺を高速道路が走るというものだ。アテネ憲章は機能主義による明快な都市計画理論として各国の都市計画に大きな影響を与えた。ただこの機能主義には注意も必要だ。「千代田区は、首都東京の中心として発展を続け、また、日本の政治経済の中心として国際的にも重要な位置を占めてきた。その反面、業務機能の集中により住機能と業務機能との均衡が失われ、高額な地価の影響も相まって居住することが困難な状況があらわれ、定住人口の減少により、地域社会は崩壊の危機に直面している」と。区の住宅基本条例の前文だ。20年前にバランスを欠いた機能主義に注意が必要であると指摘していた。重要な指摘だ！



ちょっと教えて



朗報



中間支援組織について教えて

参画と協働の指針が策定されました！

中間支援組織とは、行政と地域との間に立ってさまざまな活動を支援する組織です。その役割は、区民と区民、区民と行政、行政と企業などの間に立って、そのパイプ役として中立的な立場でそれぞれの活動を支援することにあります。組織が持つノウハウやネットワーク、情報などを活用した中間支援業務を行う組織のことをいいます。

豊かな地域社会の構築には区民の区政への参画と協働が必要です。そこで、区は区民の参画と協働をより一層推進していくためのガイドラインを策定しました。公共（パブリック）は行政のものという考え方は古いものです。公共は社会のものであり社会が担うものです。それはまた多くの主体が理念を共有し参加・協働して初めて担えるものです。

中間支援業務とは、中立的な立場でのコーディネート、人材育成、ともに学ぶ、相談、協働の推進役を担う（地域の課題解決へのアドバイス）などがあります。そのことが地域のコミュニティの育成と強化につながります。さらに、行政と区民の間に中間支援組織が入ることにより、区の町会への安易な委託や区民の行政への過度な依存もなくなるのではと考えます。また、あくまで社会が主で行政が補完という関係も明確になります。現在、地域と行政の間であって活動している社会福祉協議会や生涯学習館、また、まちみらい千代田やアート331などを中間支援組織として明確に位置づけてはと今回代表質問で提案させていただきました。この中間支援組織についてのガイドブックは都で作成されています。

コラム3

住まいと尊厳

地域包括ケアシステムとは「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう、包括的な支援・サービスの提供体制であり、また、そのケアシステムの前提として必要な住まいが整備され、本人の希望にかなった住まい方を確保し、高齢者のプライバシーと尊厳が十分に守られる」とこととされている。住まいと尊厳がキーワードだ。

住まいと尊厳については区の住宅基本条例前文に書かれている。「全ての区民が人間として尊重され、ともに暮らし、ともに生活できる、人間性豊かな地域社会を築き上げていくことを宣言するとともに、その実現に向けた住宅政策の取り組みを明らかにし、住宅及び住環境の整備に関する施策を総合的かつ計画的に実施する」と。つまり、全ての区民の人間としての尊厳を保障し、その実現のために住宅及び住環境の整備を進めていく、と。20年前すでに、住まいと尊厳についてのその要性を指摘していた。すばらしい条例だ！

編集後記

環境倫理学者のベアード・キャリコット氏はいう。人のニーズではなく場所を主体にせよと。このことから宮台氏は、人のニーズ中心の「安全・安心・快適・便利」なまちづくりについて、それのみで終わっては逆

に人の尊厳を脅かすことになる」と述べる。なぜなら人と場所の関係、人と人との関係が入れ替え可能なものになってしまうからと。場所、まちを主体にという考え方、私も賛成だ。

千代田区議会議員 大串 ひろやす